

長期自然体験事業

チャレンジ&チェンジ！真夏のアドベンチャー2017 ～海拔0m～3,000mへの挑戦～

1 ねらい

- ・富山県の雄大な自然にふれながら、海拔0m～3,000mまでを自力で踏破することにより、達成感を味わわせるとともにチャレンジ精神を育む。
- ・グループ活動を通して、主体性、自立性、協調性を養うとともに、豊かで自立した人格形成の基礎を培う。

2 期日

キャンプ : 平成29年8月8日(火)～16日(水) 8泊9日
 (ボランティア研修 : 平成29年7月15日(土)～17日(祝月) 2泊3日)
 (事前説明会 : 平成29年7月17日(祝月) 日帰り)

3 対象

小学5年生～中学3年生

4 参加人数/募集人数/応募者数

18名/18名/74名

5 講師・スタッフ

国立立山青少年自然の家職員 6名
 法人ボランティア 9名
 国立登山研修所職員 1名
 立山ガイド協会登山ガイド 1名

6 ボランティア研修

国立立山青少年自然の家職員 6名
 法人ボランティア 9名
 立山ガイド協会登山ガイド 1名



| | 午前 | 午後 | 夜 |
|-------------------|---------------------------|------------------------|---------------|
| 7月15日(土) 1日目 | ○黒部市ふれあい交流館見学 ○自転車行程下見 | ○自転車行程下見 ○国立登山研修所見学 | ○登山準備 |
| 7月16日(日) 2日目 | ○立山登山 | ○ふりかえり | ○ボランティア企画活動準備 |
| 7月17日(月・祝) 3日目 | ○事前説明会準備 ○事前説明会 | ○事前説明会 ○解散 | |

7 共催・協賛・後援・協力

共催：独立行政法人 日本スポーツ振興センター 国立登山研修所

協賛：富山トヨタ自動車株式会社、大塚ウェルネスベンディング株式会社東海支店金沢駐在、高陽電気株式会社、味の素株式会社、池田模範堂、横山冷菓、アサヒ飲料株式会社、日の出屋製菓産業立山本店、北陸コカ・コーラボトリング株式会社北陸地区本部富山支店

後援：富山・石川・新潟各県教育委員会、立山町教育委員会、北日本新聞社、Net 3、ケーブルテレビ富山

協力：富山県立山博物館、立山カルデラ砂防博物館、学校法人上智学院、黒部市ふれあい交流館、立山室堂山荘、富山県立滑川高等学校

8 日程

| | 午前 | 午後 | 夜 |
|-------------------|---|----------------------------------|--------------------------------|
| 8月8日(火) 1日目 | | 受付14:00～ 出合いの集い 班タイム | 立山博物館講演、パッキング ※自然の家(本館)泊 |
| 8月9日(水) 2日目 | 仲間作り活動 | 自転車合わせ・自転車練習 | 班タイム ※黒部市ふれあい交流館泊 |
| 8月10日(木) 3日目 | 洋上体験活動(滑川高校実習船) | 石田浜へ移動(海拔0mへ) 歩行行程 黒部市ふれあい交流館 | 班タイム ※黒部市ふれあい交流館泊 |
| 8月11日(金・祝) 4日目 | 自転車行程 黒部市～魚津市～滑川市～上市町 ～立山町～富山市～立山町～国立登山研修所 | | 班タイム ※登山研修所泊 |
| 8月12日(土) 5日目 | カルデラ砂防博物館見学 | ロッククライミング体験 | パッキング(登山準備) 班タイム ※登山研修所泊 |

| | | |
|-----------------|-----------------------------|---------------------------|
| 8月13日(日) 6日目 | 登山行程① 千寿ヶ原～美女平～弘法～弥陀ヶ原 | 星空観察、班タイム ※六甲学院立山ヒュッテ泊 |
| 8月14日(月) 7日目 | 登山行程② 弥陀ヶ原～天狗平～室堂ターミナル～室堂山荘 | 班タイム ※室堂山荘泊 |
| 8月15日(火) 8日目 | 登山行程③ 室堂山荘～ノ越～室堂山荘～室堂ターミナル | ファイナルパーティ ※自然の家(本館)泊 |
| 8月16日(水) 9日目 | 活動のまとめ・発表会 | 別れの集い 解散 14:00 |

9 参加者からの感想

●新しい自分に会えた

今回のチャレンジ&チェンジで自分を変えることができた日がいくつかあります。まず、「決意した日」は、2日目の仲間づくりの日です。最初、知らない仲間と話をするのがとても嫌でした。でも、「このまま仲間をつくらずにキャンプを終わらせるのはもっと嫌だ」と思い、その時「自分から仲間をつくろう」と決意しました。「嬉しかった日」は、4日目の自転車行程の時に、話せる仲間とふざけていたら、それを見ていた話したことの無い班員が笑顔で話しかけてくれた時です。「感動した日」は、登山行程の1日目です。僕がすごく疲れていた時に、班の仲間が優しく話しかけてくれて、すごく元気が出ました。もし、話せる仲間がいなかったら、こんなつらい山道は登れなかったと思います。「仲間って元気を与えてくれるんだなあ」と思いました。「新しい自分に会えた日」は、登山2日目のきつい坂道を登っている時、僕はあんまりきつくて休みたいと思い、班員みんなに「ちょっと待って」とお願いした時です。僕は今まで、こんな時は、黙って勝手に休んでいたり、泣いていたりしていました。でも、この言葉を言った後、「自分の言いたい事や感じたことをちゃんと伝えれば受け入れてくれるんだ」と思いました。この時初めて「自分の考えや感じたことを人にちゃんと伝えないとダメなんだ」ということがわかりました。



●勇気を出して積極的になろうとした9日間

このキャンプに参加する前、私は人見知りだと思っていました。でも、「私は、自分から話しかけるといほんの少しの勇気もてないだけだったんだ」ということがわかりました。そう思うようになったきっかけは、「チャレ・チェンカード(毎日のチャレンジとチェンジを書くカード)」をスタッフさんにチェックしてもらった時です。3日目に「だんだん笑顔が増えてきたね」と言われた時、キャンプ当初の自分が、どれだけ押しが弱く笑顔が少なかったんだということに気付きました。そして、ほんの少しの勇気もてないせいで自分は笑顔が少なかったんだと考えました。そこからは、自分から積極的に何かをしようと思い、班員に自分から話しかけたり、励ましたりすることができました。また、体調の悪い仲間に自分から声をかけることもできました。今回のキャンプで私は「最初からもっと自分を出せる」と思えるようになりました。そのきっかけをつくってくれたキャンプの仲間やスタッフの皆さんにとっても感謝しています。

10 成果

- 今回、新たに滑川高校の実習船による洋上活動を取り入れた。天候にも恵まれ、これから登頂する立山山頂を臨むことができたことや富山湾の海底地形を探知機モニターで目の当たりにすることができたという点で有意義であった。
- キャンプ中の日々のチャレンジ(挑戦)とチェンジ(変容)を毎日記入する「チャレ・チェンカード」を用いた。キャンプ全体の目的を参加者に強く意識させると共に、個々の目標についても班員全員で共有し、より強く意識させるという点で有効であった。

11 今後の課題

- 事業10年目を迎え、プログラム内容については再検討する必要がある。事業の目的を再確認し、参加者の発達段階の差を十分に考慮して、ルート・移手段の変更や活動内容の精選を行う。
- 他施設との連携をより充実させるため、プログラム内容の精選と事前打ち合わせの強化が求められる。